

# 多様化する医療ニーズに応え、 くすりは、さらに進化し続けます。

**Q1** 今後、どのようなくすりが開発されるのでしょうか？

**A** 新しい治療プロセスが期待できる「ゲノム創薬」による新薬の開発が、  
いま、世界中で進められています。

「ゲノム創薬」とは、遺伝子情報を利用して医薬品を創造することです。人間をはじめとする生物の遺伝子情報から、病気やその治療に関連するものを発見し、そのメカニズムを解明することで、新しい治療プロセスが開発できると期待されています。最近の生物学的製剤には、ゲノム技術により遺伝子を組み換え、過剰なTNF（腫瘍壊死因子）に結合するくすりが開発され、関節リウマチの病態を抑える治療に用いられています。



**Q2** 体質に合った、副作用の少ないくすりを選ぶ良い方法がありますか？

**A** 個々人の遺伝子情報をもとにした「テーラーメイド医療」が注目されています。

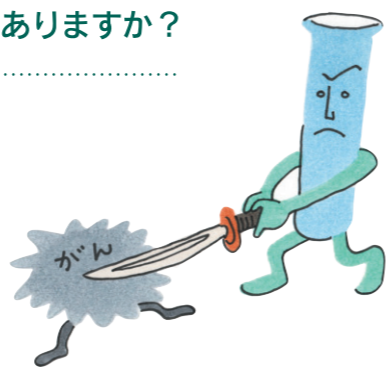
遺伝子情報が解明され、個人によってくすりの効果や副作用が異なることがわかってきました。そこで、個人の遺伝子のタイプに最も適切なくすりを選んで治療する「テーラーメイド医療」が注目されています。遺伝子検査などから、患者さんの体質を調べ、患者さんにとって最も効果があり、かつ副作用の発現が最少となるように、くすりの種類、投与量、投与法を決めていく、という方法で



**Q3** ヒトがもつ「免疫力」を応用した新しいくすりはありますか？

**A** 「抗体医薬品」があります。

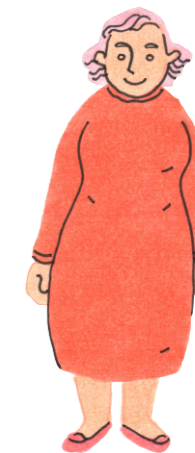
人間には、体内に侵入しようとする病原菌などに対抗するため、免疫機能が備わっています。抗体医薬品は、その免疫機能の主役を担う「抗体」の性質を利用したくすりです。がんに対しては、がん細胞を選んでくすりを効率よく作用させることができ、副作用を抑えるといわれています。なお、がんの他にも、リウマチやぜんそくなどの自己免疫疾患や、いままで難病とされていた病気などの治療が、抗体医薬品の登場により、より効果的になりつつあります。



**Q4** 最近「メタボリックシンドローム」という言葉をよく聞きますが、  
どのような意味ですか？

**A** 肥満や高血圧症などが重なり、  
動脈硬化などになりやすい状態のことです。

食生活の欧米化や運動不足などにより、心筋梗塞や脳梗塞といった動脈硬化性疾患の患者さんは年々増加しています。内臓脂肪の蓄積（肥満）があり、中性脂肪、HDLコレステロール、血圧、血糖値などに複数の異常がみられる場合、たとえそれぞれが軽度であっても、動脈硬化になりやすいことがわかってきました。このような状態をメタボリックシンドロームと呼び、内臓脂肪の蓄積はウエスト周囲径（男性85cm以上、女性90cm以上）で判断できます。治療としては、内臓脂肪の減少を主眼にライフスタイルの改善をまずおこない、改善がみられない場合には薬物療法をおこないます。



**Q5** いま、「予防医学」が注目されていますが、なぜですか？

**A** 予防への考え方が大きく変わりつつあるからです。

これまでは、予防接種のように病気を未然に防ぐことを目指してきました。しかし、現在は、万一、病気になってもその進行を抑え、再発や合併症を防ぐというように、病気の進行段階に応じた「予防」が重視されてきています。近い将来、遺伝子情報を解析し、病気になるリスクを予防することができるになれば、がんや生活習慣病などの予防が可能になるでしょう。また、病気を予防することで、治療や入院などにかかる医療費も軽減されることとなります。



**Q6** 「アンチエイジング」とは、どのような意味ですか？

**A** 身体の老化を防ぐことを目的としたケアや考え方のことです。

「アンチエイジング」は、一般的には美容領域で多く使われていますが、本来は老化を防ぎ、若返りを促すことで、高血圧や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病を予防する、ということも含まれる概念です。この概念をもとに、老化のメカニズムなどの研究を通じ、精神面を含めたアンバランスで病的な老化を積極的に予防し、治療することが「アンチエイジング医学」といわれる予防医学です。

